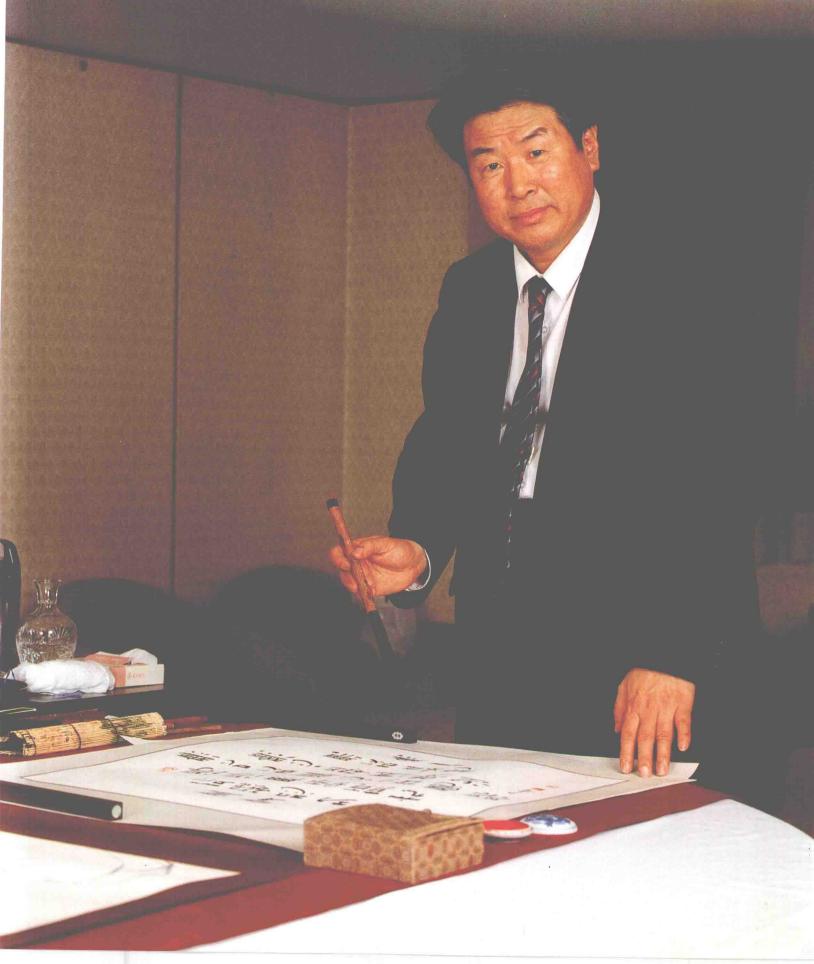


責任編輯:范 緯封面設計:張希廣

(京)新登字 056 號

于濤書畫集 作者 于涛 始版 文物出版社 發行 文物出版社 一九九五年五月第一版 一九九五年五月第一版 一九九五年五月第一版

> 787×1092 1/12 印张: 9 ISBN7-5010-0847-7/J₂·299



當美工 亦諧 不拘一 性 耕耘者。 的二十多年,被剥奪了藝術生涯和創作的權利,下放農村、工廠勞動改造。一九六五年,他被調到一家工廠 往《大連公安報》做美術編輯工作。一九五七年,正當于濤才華初展,嶄露頭角之時,被錯劃爲右派,此後 美術通訊員,從事漫畫、 干部學校,十五歲便參加了工作。一九五四年起,他先後被《大連日報 ;又能以草隸爲行書,章法錯落,瀟灑秀美。在國畫方面,他對山水、 由于家境貧寒,他僅讀了五年書便被迫輟學, 于濤,字雨村, 格,尤擅畫道釋神仙、歷史人物。他用筆簡捷,揮寫自如,注重『以形寫神』,作畫從不起稿, 渾然天成 期間, 在書法方面,他的篆書能將大小篆匯爲一爐 他酷愛書畫之癖不但未減,反而更加頑强地追求。于濤在書畫界是一位苦行僧和辛勤默默的 號片月齋主,河北省黃驊市人,一九三六年五月生;幼年酷好書畫,少有所成,享譽鄉 連環畫創作,曾參加過 書畫則只能靠自學,轉益多師 九五四年大連市舉辦的第一 ,隸書以漢隸爲基, 》、《遼寧日報》、 人物、 寫出多種風格,雄渾古樸,各具特 花鳥多有涉獵 届美展并獲獎,之後被調 九五二 《遼寧畫報 年考入大連公安 ,畫路寬廣 》聘爲 亦莊

當代書法家辭典》 志 品與名字先後被收入 成功地在日本東京、長崎、滋賀舉辦了書畫展,數以千計作品流傳海外 《修美》、 近年來,于濤書畫作品經常見諸報端, 香港 《當代中國名畫鑒賞》以及一九九三年英國劍橋名人傳記中心《有貢獻的國際知識分子名 《中國書法百家墨跡精華 《中國美術年鑒》(一九四九—一九八九版) 還多次歷膺國內外大展,并多次獲獎,五次東渡扶桑授藝,三次 》、《中國當代書法大觀 《中國古今書家辭典》 國內博物館、碑林也多有收藏。作 《中國當代國畫家辭典 日 本墨藝雜 《中國

省書法家協會理 聯誼會常務理事等 員、大連市人民對外友好協會理事、大連市中日友好協會理事 于濤現爲大連書畫院副院長,國家二級美術師, 事 遼寧省美術家協會會員 陽朔畫院顧問 大連市書法家協會副主席, 、臺灣中國美術家協會榮譽理事 中國書畫電視藝術學會理 中國書法家協會會員 事 大連市政 國際文人書 (,遼寧 協委

十七日 人生 結着民族的歷史、民族的精神,使人感到意味無窮。 壯: 于濤先生其人與書畫同 簡括明快 廣播電臺,一 特風格和個性 己遮風蔽陽,而應該在汲取傳統的書畫藝術和名家藝術精華的同時,大膽創新 墨己達到 遠不會是圓滿之月, 條自學的 他的作品都具有愛國主義體現,是對生活愛之彌渾,對藝術求之甚切,厚積薄發的結果。 最 既不能重復别人,也不能重復自己 向前發展 苑翱翔書林四十余年的今天,已有 寧所指出的 具改革開放的國際性城市 以真誠的熱情去追求藝術的真諦,靠令人信服的實力去贏得社會承認。他認爲:幾百年來, 種耐人尋味, ıE. 《筆法傳神、各呈風韻》 可以毫不誇張地說 如藝術評論家林容華所説:『照常理,于濤先生早年命運多蹇,歷經坎坷,如今幸逢盛世,在馳騁藝 路 ,無論傳統人物還是現代人物 要創新 種玄妙的境界, 想超越 但并没有成才。 那 九九四年一月十二日,《瀟灑放達寫春秋 叩人心扉的激情,是有相當的藝術感染力的 樣 在創作中有意增加作品的時代脈搏的承受力。 就要更新觀念,就不應以盲目追逐某家某派,給自己套上 而僅僅是小小片月。 『于濤的作品不去刻意追求華麗與雕琢, 灑脱豁達,內涵修遠,但他從不以書畫家自居,他常説:我在藝術 于濤先生的創作已從大連走向了世界 正如他把自己畫室取名《片月齋》 大連,這片沃土上用心謳歌自然與人生,融淳厚熾熱的情感于書畫作品中 」的拼搏精神 ……。 「資本」享受「車馬宴集之樂,公門迎送之嬉」,但他對此 步,其難度往往要藝術家的畢生探求,而時代又要求中國書畫藝術 ,都透露着中國人的達觀 深信, 在以後的歲月裏, 大 前, 』又説:『于濤先生之所以取得斐然成就,全在于他在 小記于濤先生》)又正如藝術評論家梅智强 深得海內外各界藝術愛好者的關 ……。于濤的大寫意人物,用墨酣暢淋灕, 而是力求作品的內涵與張力, 這也正是他目前孜孜以求所遵循的 而自稱片月齋主那樣,他認爲自己的藝術永 睿智。那流動的線條, 他將以如椽大筆更加豪放的去抒寫美好的 』(原載 《海南日報》一九九二年四月二 要敢于標新立異 個框架, 那變形的體態, 以前人的樹冠爲自 』(摘自海峽之聲 從而使作品 上雖然走的 注和喜愛 却不勝鄙夷 中 ,去創作獨 國書畫的筆 藝術創作 用筆 是 帶有 必須 莫 唯

Yu Tao, also known as Yu Cun and "Crescent Moon", was born in May, 1936 in Huanghua City, Hebei Province.

In his childhood, Yu Tao showed a strong love for fine arts. However, due to his family's difficult financial sltuation, he had to quit school after the 5th grade and studied calligraphy and painting on his own. In 1951, Yu Tao entered Dalian Public Security Training School and started working at the age of 15. In 1954, he was hired as an artistic reporter by Dalian Daily, Liaoning Daily and Liaoning Pictorial Successively. In the same year he participated in the first art contest in Dalian and won a prize. Later he worked for the newspaper Dalian Public Security as an artistic editor. In 1957, just when his career was poised to take off, Yu Tao was branded a Rightist and was deprived of the right to create for 20 years thereafter. However, During those hard times, instead of losing hope, his interest in art increased.

In the fields of calligraphy and painting, Yu Tao is a diligent and pious monk, a silent and hardworking tiller in calligraphy, his *zhuanshu* integrates *dazhuan* with *xiaozhuan* and his *lishu* is created on the foundation of hanli. His styles represent versatility, simplicity and originality. In painting, Yu Tao depicts a wide range of subjects, Besides mountains and waters, figures, flowers and birds, he is especially adept at painting Taoist priests, Buddhist monks, supernatural beings and historical figures, He paints spontaneously, without any draft, to allow the spirit of his subject to be expressed most naturally.

In recent years, he has visited Japan five times, exhibiting his works in Tokyo, Nagasaki and Shiga. His works are widely circulated, and a great many are kept in museums. His name has been included in books such as A Fine Collection of Works from 100 Calligraphers, A Review of Modern Chinese Calligraphy, The Dictionary of Modern Chinese Painters, The Dictionary of Modern Chinese Calligraphers, Almanac of Chinese Fine Arts (1949-1989), The Dictionary of Ancient and Modern Chinese Calligraphers, Shubi, which is a Japanese magazine, Appreciation of Famous Modern Chinese Paintings, which was published in Hong Kong and The International Who's Who of Intellectuals, which was published by International Biographical Centre, Cambridge, England in 1993.

Having reached the second highest rank of fine artist in China, Yu Tao presently holds the following titles: Vice President of Dalian Calligraphy and Painting Institute, Member of China Calligraphy Association, Vice Chairman of Dalian Calligraphy Association, Director of Calligraphy Association of Liaoning Province, Member of Artist Association of Liaoning Province, Adviser of Yangshuo Art Gallery, Director of China Calligraphy and Painting Television Art Association,

Member of Dalian Municipal Political Consultative Committee, Director of Dalian People's International Friendship Association, Director of Dalian China-Japan Friendship Association, Honorary Director of Taiwan Artist Association and Standing Director of the International Scholar and Artist Club.

According to the critic Lin Ronghua, although Yu Tao could easily rest on his laurels, he continues to pursue the true meaning art with sincerity and enthusiasm and continues to win further recognition relying on his own strength. He feels that Chinese calligraphy and painting have reached such a height that it takes an artist's complete lifetime to go beyond that height. Yet Chinese calligraphy and painting still need innovation. In his opinion, the first step to innovate art is to innovate one's outlook instead of following a certain school blindly. he says: "when it comes to artistic creation, we can neither repeat others, nor ourselves." (From the radio broadcast "Painting the four seasons with a unfettered hand" on the station Voices of the Strait, January 12, 1994) As the critics Mei Zhiqiang and Mo Zhangning point out, instead of magnificence and sophistication, Yu Tao strives to achieve depth and power which make his works touching, captivating and thought-provoking. His brushwork figures, both traditional and contemporary, reveal the philosophical outlook and wisdom of the Chinese people. The smooth lines and ever-changing figures are an embodiment of Chinese history and spirit. (Hainan Daily, April 27, 1992) Just like his calligraphy and paintings, Mr. Yu Tao is unrestrained, deep and philosophical. However, he never claims to be an artist. He often says that his pursuit of art can never be a full moon, but a crescent moon which explains the name of his studio and his artistic name. It is our belief that he will continue to draw the portrait of life freely and boldly. It suffices to say that Yu Tao's works have moved from Dalian to the world.

> Translated by Weiqing Su Proofread by David K. George

認められた頃、一九五七年にあやまって右派に入れられた。それからの二○余年は、 かえって芸術への探究心は旺盛となった。 工場に下放された。 連日報」 の師や先輩の指導があった。 であったが家が貧しくて五年間の学業を続けることができなかった。 「于濤」の字は雨村、号は片月斎主である。 同年、 大連市の第一回美術展に入賞した。その後「大連公安報」の美術編集者として採用され、 「遼寧日報」、「遼寧画報」の美術モニターとして招聘され、 一九六五年、工場の美術スタッフとなったが、その間にも彼の書画への愛好心は益々つのり、 一九五一年、大連市公安幹部学校に入学、 一九三六年五月に中国河北省黄驊市で生まれた。 書画の勉強は独学しかなかったが幸いに多く 一五オで仕事を始めた。 漫画や小型の絵物語本に描くことになっ 創作の権利を剝奪され、農村 幼少より書画が 一九五四年から「大 やっと才能が

書画界における「于濤」は苦行僧でもあり、勤勉な開拓者でもある。

風格の雄渾にして素朴な趣きのある書を書くことができる。また草書で行書を書く。 わらない大らかな美しさがある 書道面において、 彼の篆書は大篆、 小篆をまとめて一つにすることができる。 隷書も漢隷をもとに、 その全体の趣きは自然でこだ さまざまな

る 重視するため、全くスケッチはしない。従って、風格がある中にも軽妙なところがあり、 仙や歴史人物などが得意である。 中国画の方面において、 山水、 その筆づかいは直截で端的であり、 人物、 花鳥などにわたり、 画法はそれぞれに応じ格式にはこだわらない。 自由自在である。 しかし、 画は渾然一体となってい 玄妙に描くことを 特に神

のケンブリッジ名人伝記センターの 八九年版)及び 国当代書道大観」 されている。 した。 一八才以後、 五回も日本を訪問したが、 国内の博物館、 「中国古今書家辞典」に、また日本の墨芸雑誌「修美」、 「于濤」の書画は、常に新聞の片隅に載っていたが、 「中国当代中国画家辞典」、「中国当代書道家辞典」、 碑林にも作品が収蔵されている。 東京、 「貢献のある国際知識人名鑑」(一九九三年)などに収められている。 長崎、 滋賀での三回の書画展を成功させた。数千枚の作品は海外にも収蔵 人名、 作品は「中国現代書道百家墨跡精華」 近年は、 香港の「当代中国名画鑑賞」やイギリス 「中国美術年鑑」(一九四九年——九 国内外の大きな展覧会に何回も入賞 中

道家協会会員

遼寧省書道家協会理事、

遼寧省美術家協会会員、

陽朔画院顧問

中国書画電視芸術学会理事、

大連

国家二級美術師である。

その他、

大連市書道家協会副主席

中国書

現在

「于濤」

は大連市書画院副院長を努め、

市政治協商会議委員、 一画家聯誼会常務理事等を兼任している 大連市対外友好協会理 事、 大連市中日友好協会理事、 台湾中国美術家協会名誉理 国際文

ある。 ない。 達写春秋 芸術に対しては基礎からの蓄積を重んじる結果である。 い情感をありのままに作品の中に溶け込ませている。 n た自分のものもくりかえしであってはならぬ」ということにつらなるのである。 えることである。 盲目に流派に追随すべきではない。 そして、 ルはすでに一 だけがあり、 君主の門に送迎されるほどの遊楽を享受する資格があるのに、 文芸評 た重要な原因は、 なすべきことは、 つまり、 今の平和な繁栄の時代にあっては、 今や中国書画は前進しなければならない。 :論家の林容華先生はつぎのように評している。 - 于濤先生」より) 種の玄妙の境界に達している。 人々に信頼され、 独創性を発揮することである。 これは、 改革、 伝統の書画芸術の中からその真髄を汲みとり、 開放の国際的都市大連という土地で、 彼が目下孜々として守っている「 自分の実力を社会が認めてくれることに満足している。 自己をある鑄型にはめ込み、 すでに四十年間も活躍されたのであるから、 これを乗り越えるには芸術家の生涯の探究が必要でなければならない。 創作においては、 新しいものを創造するには、 彼の作品は愛国主義の具現でもある。 L「于濤先生は若い $\widehat{}$ 芸術は他人のもののくりかえしであってはならぬ それを快く思わず、 九九四年一月一二日ラジオ 心から自然と人生を謳歌するからである。 先人の勲功で自己を護るようなことをしてはなら 作品が時代の脈拍に耐えられる力を持つように考 大胆に新しいものを作り出していくことで 頃、 運勢がよくなく、 于濤先生が輝かしい成功を収め 観念を更新しなければならない。 ただ芸術の真諦を追求する熱意 千百年来、 人は集まり馬車 海峡の 生活には自然を重んじ 失意のまま過ごさ 中国書 が絶えず、 画の 瀟洒放 彼の熱

にしろ、 ある。 たれた。 民族の精神を凝結していて、 2 芸術評 0 ある作品 于 すべて中国人の達観 濤の写意の人物画は墨使いが非常に愉快で、 論家梅智強 (一九九二年四月二七日 張力に極力努めてい 莫壮寧先生は次のように言っている。 人に大きな感動を与えている。 智恵をほのめかしている。 る。 「海南日報」「 だから、 作品に人は興味津 -筆法伝神、 筆使いにも簡潔明快である。 その流動的な絵の線、 それで、 「于濤の作品は華麗さや飾り立てるものを求めず、 各顕風韻」より) 々たるものを寄せ、 内外の芸術に関心のある人たちにも好感がも 変形した体の姿勢は、 伝統的 人の心を感動させるもの 人物にしろ、 現代的 民族の歴史、 人物 含

清先生の人格もその書画 の風格 と同じで、 自然でさばけている。 そして明朗である。 その 含みの あるもの

待し、そう信じている。于濤先生の創作はすでに大連から世界に向かって発展していると言ってもよいと思う。 を歩んできた。一人前の芸術家というには、まだ遠い」と言う。彼が自分のアトリエを「片月斎」と名付けて、自 ら片月斎主と称するように、自分の芸術は満月のようにならないだけでなく、小さな一つの三日月であるにすぎな いと認識している。これからの歳月で彼が大きな筆をとって、もっと豪放に美しい人生を表現することを大いに期 はるかに遠いさまである。しかし、彼は自ら書画家と任ずることはしない。彼は「私の芸術を学ぶのに、独学の道

(訳者::于水/監修::北脇洋子)

版 目 錄

復州城東關

几 \equiv 三峽行 汾上驚秋

Ŧi. 暮 九峰雨霽圖 歸

七 不要人誇顏色好 只留清氣滿乾坤

八 長江邊上有人家

九 秋艷圖

0 竹 阿彌陀佛 韻

_: 望月懷遠圖

=: 四 濟公圖 大肚能容圖

Ŧi. 陸放翁望梅圖

七 六 八 納凉圖 書畫家 鐘馗夜巡圖

九 鐵拐大仙走游圖

醉醒圖

觀嵐圖

復州城永豐塔

坐禪圖

三四 曹雪芹小像

<u>一</u> 五. 著書圖

二七 二六 達摩圖 坐而論道圖

二九 二八 隱士圖 達摩化度(緣)圖

Ξ 樂天圖 \equiv

日本相撲英姿圖

= 寒山拾得問答圖

臨封龍山碑

三 五 三四四 更上一層樓 摩訶般若波羅蜜多心經句

三七 不俗即仙骨 三六

白雲悠悠

三九 謙受益滿招損 竹影松聲

李白醉酒圖

四七 四六 撥雲尋古道 蘸墨才題梅似雪

四八 臨魏碑

四九

臨裴將軍

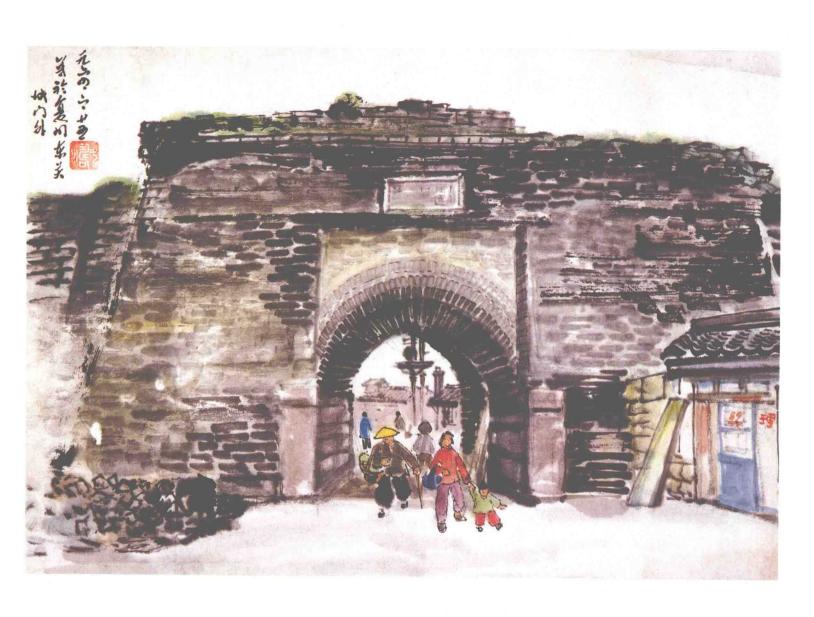
四 五. 陶潛詩

四四四 胸藏萬匯憑吞吐 醉酒觀其性

日日臨池把墨研

四〇 翰園碑林拓片

蘇軾前赤壁賦



一復州城永豐塔

43× 30cm 1964 The Yongfeng Tower of Fuzhou City



68× 68cm 1989 Surprised Autumn over the River



四 三峽行 60×50cm 1989 The Three Gorges